

## &lt;文化施設における資料の活用等について&gt;

施設名: 町田市立自由民権資料館

(資料の内容)

	内 訳	寄贈	購入	発掘	その他	合計
資料数	古文書(旧家文書)	10,000	300	0	150,000	160,300
	近世・近代刊行物	1,000	1,000	0	0	2,000
	公文書(旧役場文書等)	0	0	0	200	200
	刷り物(錦絵等)	5	20	0	0	25
		11,005	1,320	0	150,200	162,525
成り立ち、収集方針	成り立ち: 民権家村野常衛門のご子孫が、自由民権運動の意義を後世に伝えるために利用してほしい、との条件で民権運動縁の地を提供して下さった。当時町田市は市史編さん事業を終えたところだったことから、市史編さん業務の引継ぎ機関をかねて、自由民権資料館として建設された。 収集方針: 原則は市内の旧家文書を寄贈・寄託・借用契約により、収集・保管している。また、微々たる量だが、展示で利用可能な民権運動関係史料(刊行物・刷り物など)は、購入により収集					
分類(内訳)ごとの特徴・特色	古文書(旧家文書等)	市内の旧家文書で、近世後期～戦前期のものがほとんどである。市域の民権運動の史料もこれに含まれる。旧家文書内の刊行物・刷り物もここに含めている。				
	近世・近代刊行物	民権期を中心にした時期の単行本・雑誌など、「家永三郎文庫」や閉館となった都近代文学館から譲渡されたものなど				
	公文書(旧役場文書等)	各支所など各部署に残されていたものを移管した。村によっては「村会議事録」明治・大正期のなど村の基本史料がある。				
	刷り物(錦絵等)	国会議事堂、憲法発布など民権運動に関係するもの				
評価額	円					
特色のある(貴重な)資料	家永三郎文庫		南多摩郡各町村縮村図(石坂博義家文書)			
	村野常右衛門関係史料(村野浩太郎家文書)					
	青木正太郎関係史料(青木正太郎家文書)					
寄贈・発掘等今後の見通し	現体制では、積極的に史料収集のために旧家に当たることは不可能(未整理の史料を整理する体制が組めない)なので、現在収蔵している史料の整理に重点を置き、借用から寄託・寄贈への切り替えを進めていくという方針を立てている。原町田・武藤充家、小川・細野武文家などの旧家文書が、整理終了後に順次寄託契約の予定。					

(保管状況)

	場 所	広 さ	課題(空調の有無等)
収蔵庫	自由民権資料館	149.2㎡	空調は現在故障中(→来年度修繕予定)、閉架書庫がな
	旧本町田西小	教室1/3程度(他と共用)	空調なし
整理状況			
保管状況による資料への影響	収蔵庫内の空調がダウンしており、温湿度管理ができていない。毎年旧家から寄贈・寄託史料があるが、来年度以降燻蒸予算が確保できていない。博物館・版画美術館・文学館等と比較して当館の史料は虫・カビの被害の可能性が高い条件下に置かれている所から搬入されるケースが多いので、憂慮すべき事態である。 展示室の空調は閉館時間に稼働させておく予算が確保できていない。		

(活用状況) 所管外からの借用依頼(2000年以降)

年度	依頼者名	展覧会名	資料の種類	出展数	備考
1999	国立歴史民俗博物館	地鳴り山鳴り—民衆のたたかい300年—	旧家文書(明治期刊行物)	2	
2001	三春町歴史民俗資料館	漫画で見る自由民権運動	写真(ネガ)	1	
2001	相模原市立博物館	“道”再発見—道の役割とその移りかわり—	旧家文書	5	
2001	新宿歴史博物館	特急電車と沿線風景～小田急・京王・西武のあゆみと地域の変遷	市刊行物 館蔵古文書	2	
2001	横浜開港資料館	横浜商人・繁栄の60年—野沢屋茂木商店とその人びと	旧家文書	1	
2001	町田市立図書館	町田にゆかりの作家たち	旧家文書	5	
2003	羽村市郷土博物館	玉川上水 350の軌跡	旧家文書	1	

2003	茂原市立美術館・郷土資料館	千葉県の自由民権運動	明治期刊行物	10	撮影写真を展示
2003	相模原市立博物館	相模原の石仏～石仏が語る地域の歴史～	旧家文書	2	
2004	塩山市教育委員会(塩山市民文化会館歴史資料室)	真下晩菘と樋口一葉	旧家文書	4	
2004	日本新聞博物館	自由民権と土佐 高知新聞の100年	民権史料複製	1	
2004	三鷹市教育委員会	新撰組と多摩の民権展	写真	3	
2004	武相困民党120周年記念フォーラム	武相困民党120周年記念フォーラム(パネル展示)	写真パネル	5	
2004	東京都総務局人権部	多摩の自由民権運動と二人の女性	旧家文書、写真	9	
2005	日野市立新選組ふるさと歴史	新選組誕生	旧家文書	9	
2005	国分寺市教育委員会	都指定文化財の特別公開	複製	1	
2006	日野市立新選組ふるさと歴史	新選組 京都の日々	旧家文書、鎖着込	6	
2006	茅野市八ヶ岳総合博物館	島崎藤村と木下尚江の響きあう世界	写真	1	
2007	町田市民文学館	100年前の町田と『小説教育者』	旧家文書等	37	
2008	日野市立新選組ふるさと歴史	新選組 その後～自由民権運動に仮託した多摩の思い	錦絵など刷り物	9	
2008	町田市民文学館	まちだ文学さんぽ	旧家文書 明治期刊行物	18	
2009	相模原市立博物館	市民と歩いた“横浜への道”	旧家文書、縮村図	20	
2009	衆議院事務局憲政記念館	激動の明治国家建設特別展	旧家文書(民権関)	1	
2009	町田市民文学館	紙芝居がやってきた	写真	5	
2009	相模原市上鶴間公民館	武相困民党と自由民権運動	写真・パネル	7	
2010	横浜みなと博物館	横浜港を結ぶ交通	旧家文書	2	予定

\* 刊行物への写真貸出等は含めていない

## (課題)

自由民権運動を専門にした施設は、当館のほかに高知・三春にあるが、自由民権運動を専門にした学芸員を置いているのは当館だけである。そのため、研究シンポジウムでの報告依頼なども多くあり、全国の自由民権研究情報センターとしての役割を期待されている。また、市域を含めた自由民権も市域だけでは当時の状況を把握できないので、当時の行政区分である旧神奈川県域(現神奈川県域+多摩地域)を範囲とした自由民権運動像を解明していくことを館の命題としている。一方、市域の歴史全般を担当する施設でもあり、古代・中世から現代までのレファレンスなどに答えなくてはならない。それに対し、正規職員は日本近現代史を専門とするもの1名のみである。

上記のような状況から以下の弊害が出ている。

① 通史展示をはじめとする、市域の歴史を展示紹介する場がないことである。“自由民権”を冠している以上、当館の常設展は自由民権運動についての展示であり、通史展示にはできないし、企画展でも、自由民権運動を中心にした幕末から近代にテーマは偏りがちである。

② 十分なレファレンスができない。同じ日本史だといっても、時代が異なれば政治体制・社会構造・慣習・価値観などが大きく異なり、その知識がなければ、十分なレファレンスはできない。市として、中世・近世・近代(現代)に各1名の正規職員が必要である。

③ 結果的に寄贈・寄託、寄託を前提にした借用史料などを整理するための人員と時間が確保できていない。現在収蔵している史料の整理終了にも、約10年かかると考えられる。また、市史編さん時代に整理し返却している史料は、酸性紙の茶封筒に入っており、資料保存の観点から、その封入れ替え作業もできるだけ早く行わなければならないが、そこまで手が回らないのが現状である。

④ 自由民権運動周辺の成果以外ではあまり研究成果が挙げられていない。中世・近世・現代にもよい史料が多く残されているが、それを紹介していく環境をほとんどつくることできない。

## &lt;文化施設における資料の活用等について&gt;

施設名: 文化財係(考古資料室等)

(資料の内容)

	内 訳	寄贈	購入	発掘	その他	合計
資料数	出土遺物 コンテナ(60×40×15cm)に換算			11,511		
		0	0	11,511	0	0
成り立ち、収集方針	市内の遺跡から発掘された遺物・調査記録を保管しています。					
分類(内訳)ごとの特徴・特色	縄文時代	縄文時代草創期・早期・前期・後期・晩期とあらゆる時代の遺物があり、町田は縄文の宝庫といえます。				
	弥生時代	近年の調査で方形周溝墓や環濠集落の一部?と考えられる遺構が発見され、出土遺物も増大しています。				
	古墳時代	横穴墓群が数多く存在し、その副葬品類の出土が見られます。				
	奈良・平安時代	武蔵国分寺へ瓦を供給した南多摩窯跡群があります。				
	中世	1万枚を超える能ヶ谷出土銭や板碑などの遺物が出土してい				
評価額	円					
特色のある(貴重な)資料	市指定有形文化財能ヶ谷出土銭(室町時代)	縄文中期彫刻大石棒(忠生遺跡)				
	縄文中期クルミ形土器(木曾中学校遺跡)	縄文草創期爪形文土器(川島谷遺跡)				
	縄文草創期隆起線文土器(なすな原遺跡)	縄文後晩期土器(なすな原遺跡)				
寄贈・発掘等今後の見通し	年間コンテナ約50箱の遺物が出土し、収蔵資料が増加しています。恒常的に収蔵スペースが不足しています。					

(保管状況)

	場 所	広 さ	課題(空調の有無等)
収蔵庫	考古資料室	395㎡	収蔵スペース不足・プレハブ棟の老朽化
	木曾森野地域集会施設	150㎡	収蔵スペース不足
	金森図書館	105㎡	
	忠生遺跡調査会	320㎡	2010年度にて調査会解散
整理状況	写真資料の整理が遅れています。		
保管状況による資料への影響	写真資料の劣化が見られるためデジタル化を行う必要があります。		

(活用状況)所管外からの借用依頼(2000年以降)

年度	依頼者名	展覧会名	資料の種類	出展数	備考
2010年度	大田区立郷土博物館	ふしぎな縄文土器	クルミ形土器(木曾中学校遺跡)	1	
2009年度	国立歴史民俗博物館・花巻市立博物館	縄文はいつから?	隆起線文土器(なすな原遺跡)、爪	2	
2008年度	横浜歴史博物館	華蔵台と縄文後期社会	縄文後晩期土器(なすな原遺跡)	17	
2006年度	東京都埋蔵文化財センター	縄文人の暮らし	顔面把手(藤の台遺跡)ほか	5	
	茨城県立歴史館	縄文のムラ 弥生の村	尖頭器(なすな原遺跡)ほか	3	
	相模原市立博物館	相模川・桂川流域の縄文時代	クルミ形土器(木曾中学校遺跡)	1	
2005年度	国立科学博物館	縄文VS弥生	擦系文土器(日影山遺跡)ほか	4	
	発掘された日本列島展実行委員会	発掘された日本列島2005	彫刻大石棒(忠生遺跡)ほか	8	

(課題)

全国屈指の縄文時代の資料を保有しながら常設展示の施設がなく死蔵状態です。他の市町村のように博物館で資料を公開し広く市民に情報を発信していく必要があります。